

祈っておられるうちに、イエスの顔の様子が変わり、衣は白く光り輝いた。見ると、二人の人がイエスと語り合っていた。モーセとエリヤである。二人は栄光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最後のことについて話していた。(ルカ 9 : 29～31)

主イエスは、「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている」と、エルサレムに上ってから起こることを予告された。ご自身の苦難、死、そして復活を予告された弟子たちに、「私に付いて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を負って、私に従いなさい」と、信従を勧告された。主イエスの十字架の死と復活は人間に救いを与える究極的な出来事で、これを信じ、繋がる場所に命があると、キリスト教信仰の核心を語られた。

このことを告げて8日ほど経った時、主イエスは、ペトロ、ヨハネ、ヤコブを連れて、祈るために、山に登られた。主イエスは重要な啓示は、ペトロ、ヨハネ、ヤコブの三人の弟子たちに現わしている。この時も、三人を連れていく。この時、連れて行かれたのは山である。山はユダヤ人の間では、神顯現の場とされていた。

主イエスが祈っておられると、顔の様子が変わり、衣は白く輝いた。見ると、二人の人が主イエスと親しく語り合っていた。その二人はモーセとエリヤである。モーセは律法を、エリヤは預言を象徴する人物である。二人は栄光に包まれて現れ、主イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最後、即ち、十字架の死と復活について話していた。その時、ペトロ、ヨハネ、ヤコブは眠りこけていたが、目を覚ますと、主イエスの輝く栄光と、一緒に立っているモーセとエリヤの姿が見えた。モーセとエリヤが主イエスから離れようとした時、ペトロは主イエスに、「先生、私たちがここにいるのは、素晴らしいことです。幕屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのために」と言った。彼は感激して、何を言ったらいいか、分からなかった。すると、雲が現れ、彼らを覆った。そして、雲の中から「これは私の子、私が選んだ者、これに聞け」という声がした。この声がした瞬間、主イエスだけがおられ、モーセとエリヤは消えてい

た。彼らはあまりに素晴らしい光景を見て、沈黙し、誰にも言わなかった。感動して、言えなかったのである。

この山上の変貌は史的事実ではない。主イエスは死と復活を予告された。著者ルカは、マルコ福音書からの伝承を受け継ぎ、予告が真実であることを、三人の弟子たちに神々しい山上の変貌で啓示されたと伝えているのである。そして、主イエスは、モーセの律法とエリヤの預言の成就者であるとのメッセージを込めている。律法と預言を成就する主イエスは、神が選んだ、神の子である。全てのことは、この者に聞けとの神の声を受け入れることが、信仰の始めである。

聖書は荘厳な映像を描き出しているが、それらは全て、主イエスは人間を救うキリストであるという一点に向かっている。



山上の変貌